

● 事業名

地域と大学を繋ぐコーディネーターのための 研究実践セミナー

- 日 時 2020年9月21日・10月3日・17日・31日
- 会 場 オンライン配信
- 参加人数 52大学・機関 206人
- 主 催 和歌山大学
- 共 催 地域連携コーディネーター研究協議会
- 後 援 NPO法人地域連携活動支援フォーラム

● 概 要

2020年9月21日・10月3日・17日・31日と4日にわたり「第9回地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」を開催した。本セミナーは全国の大学における地域連携コーディネーターや地域連携担当教職員が一堂に集い、地域と大学を繋ぐ上での課題や解決方法の共有、コーディネーターの仕事の意義や役割、今後の展望について合宿型で語り合うセミナーである。本年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、初めてオンラインで開催し、「withコロナ：ニューノーマル時代の地域連携」を大テーマに、4回シリーズで開催した。セミナーには、北は北海道から南は沖縄まで、本学を含めて52大学・機関が集い、延べ206人が参加した。

● 実施内容

開催日	テーマ	話題提供・事例紹介者
第1回 9/21	コロナ禍における地域連携の再定位	国立大学協会参与／元和歌山大学長 山本 健慈氏 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹准教授 西川 一弘
第2回 10/3	コロナに配慮した地域連携の事例報告	宇都宮大学地域創生推進機構地域デザインセンター 特任助教 坂本 文子氏 小樽商科大学グローバル戦略推進センター 地域連携教育コーディネーター 小山田 健氏
第3回 10/17	コロナ禍で地域連携を再開する基準	神戸市看護大学特任講師・慢性疾患看護専門看護師 水川真理子氏
第4回 10/31	仮想大学でコロナ禍における地域連携を考える	

初日のテーマは、「コロナ禍における地域連携の再定位」。コロナ禍において、大学全体が学生教育への対応に追われる中、改めて大学の地域連携を問い直したいと設定した。当日は本学副学長／紀伊半島価値共創基幹プログラムオフィサーの足立基浩のあいさつに始まり、国立大学協会参与で本学元学長の山本健慈氏と本学紀伊半島価値共創基幹准教授・西川一弘の基調講演を行った。

山本健慈氏からは「新コロナ禍のもとでの『地域と大学』考」として、オンライン授業への集中や置き去りにされた新1年生の苦悩、地域の苦悩や課題の共有から始まる地域連携の原点の見直しなど、コロナ禍で見えてきた日本の大学の現状などについて話しを伺った。

西川一弘からは、本セミナー企画中に実施した緊急アンケート「コロナ禍での大学地域連携に関する調査」の調査結果を報告した。規模の大きい大学では、学生フィールド科目系の中止比率が高いことや比較的新しい取り組みを想定していることが明らかに。また、特定警戒都道府県に立地している大学の地域連携事業への厳しさも明らかになった。一方で、オンラインフィールドワークや「新型コロナウイルス感染症」自体を

テーマとした学習機会やシンポジウムの取り組みが行われていることを報告した。

第2回は「コロナに配慮した地域連携の事例報告」をテーマに、宇都宮大学地域創生推進機構地域デザインセンター特任助教の坂本文子氏、小樽商科大学グローバル戦略推進センター地域連携教育コーディネーターの小山田健氏を本学へ招き、事例報告を行っていただいた。お2人からは、各大学での具体的取り組みを紹介いただき、コロナ禍で進めていく際にどのような悩みがあったのか、課題は何だったのか、進めていく際の注意事項などのお話を伺った。

第3回では、神戸市看護大学特任講師・慢性疾患看護専門看護師の水川真理子氏に「コロナ禍で地域連携を再開する基準」について講演いただいた。各回の基調講演・事例報告後にはグループワークを行い、自己紹介や大学・地域連携の現状、コロナ禍の悩みなどを話し合った。

最終回は、「仮想大学でコロナ禍における地域連携を考える」をテーマにグループワークに取り組んだ。本セミナー後に新型コロナ第3波が到来し、緊急事態宣言が再び発出されたと想定。グループを一つの仮想大学・地域連携部局と見立て、事前に指定されたグループに分かれた参加者をその大学の当事者とし、緊急事態宣言下においての地域連携事業推進について議論を行った。参加者らは、これまでの学びや経験をフルに活用し、難題に立ち向かい、最後にはスライドやラジオドラマ風などさまざまな方法で発表を行って全員で共有した。

そのほか、第2回終了後はオンラインでの情報交換会を開催。地元の名産品を紹介したり、活発に情報交換を行ったりして参加者全員が交流を図った。また、終了後も延長戦の希望に応え、遅くまで交流が続いた。

参加者から全4回を通じて、「全国と同じ立場の人と意見交換・情報交換ができた」「コロナ禍で地域連携が置き去りになり、気持ち的に腐っていたが、全国で地域連携に取り組む仲間と話をし、またがんばろうと思った」「タイムリーなテーマで、困っている状況を、同様の境遇にある方々と情報共有、課題解決に向けたワークができたのは、とても有意義だった」「各大学で苦勞しながら業務に従事されている方々が課題を共有することはもちろん、学内他部局には理解してもらえない独自の悩みなどを交流できる機会としても『ネットワーク』の存在意義をますます高めていきたい」などの声をいただいた。



10/3坂本さん、小山田さんが来学



最終回にはグループワークの発表を行った

